

ある村に農夫として堅実に暮らす一組の夫婦がいた。夫婦は14歳の息子と幸せな生活を送っていた。

そんなある日のこと、突然隣国が侵略を始め、それに応戦するため農民からも兵が集められた。夫は進んで兵士になり、妻は夫の決意に従うしかなかった。

優秀で勇敢な夫は軍隊の中で昇進していった。

開戦から3年が経ち、戦闘は次第に小さな規模となり、兵に取られた村の男たちは次々に戻ってきたが、夫だけは戻って来なかった。聞くところによると、国境に一部の軍はそのまま配備され、戦いを続けており、夫は志願して残ったのだという。

妻は必死に畑を耕し、女手ひとつで息子を大事に育てていたが、生活は苦しくなる一方だった。妻は役人に夫の消息を何度も訪ねたが、いつもただ「わからない」としか言われなかった。周りの者は皆、夫はもはや戦死していると思っていた。

そんな状況が続いたある年の冬、妻は病気に倒れた。家には貯えがなかったので、ずっと我慢をしていたが、ついに耐えきれず医師に診てもらった。

独身だった医師は妻に心ひかれ「病気の治療には相当なお金がかかる。あなたが結婚してくれるなら、すぐに病気を治してあげるし、息子も一緒に面倒を見てあげよう」と妻に求婚した。

妻は「私には夫がいます」と即座に断ったが、医師は「彼はもう3年も帰って来ないではないか。この国の法律では夫が2年間行方不明の場合、再婚していいことになっている」と強く迫り、妻の心は揺れた。悩んだ妻は何も答えずに医師のもとを去り、教会を訪ねて牧師に相談した。

牧師は「私には神に祈る事はできても、答えは出せません。あなた自身が決めるしかないのです」と答え、祈りをささげるのみだった。

さらに3日が過ぎ、妻の病状は次第に回復していったが、これからの生活の不安は募る一方だった。ついに妻は決断し、医師との結婚を承諾した。

妻と医師の結婚式が行われた1週間後、突然、夫が村に帰ってきた。

夫は妻と医師の結婚を知り、医師の家に怒鳴りこんだ。夫は「私は家族と国を護るために必死で戦ってようやく帰った。それなのになぜ我慢できず私を裏切ったのだ」と妻をなじった。妻はどう答えていいかわからず、ただ泣くだけだった。

この物語の中で、あなたは誰の立場・態度に、もっとも共感・支持・納得できましたか？その順位を書いてみて下さい。

①妻    ②夫    ③医師    ④牧師